



水面を彩る 水草たち

井の頭池では1960年代に湧水が涸渇したことにより水質が悪化し、沈水植物（茎葉が水中にある水草）の生育が確認されなくなっていた。2014年1月～3月に行われたかいぼりで池底を干し上げた結果、池底で休眠していた種子が発芽した。またかいぼりの際に、水草を食害したり泥を巻き上げて水を濁らせたりする外来魚のソウギョやコイを取り除いたことも奏功し、現在、数種類の水草が確認されている。



水中で酸素を出すツツイトモ

水面を彩るツツイトモ

ツツイトモは葉や茎が糸のように細い水草で、東京都と環境省それぞれレッドリストで絶滅危惧種に選定されている。かいぼり後の2014年に確認されて以来、生育範囲が年々広がってきた。一昨年にはツツイトモが水面に濃液を描き出す様子がクロード・モネの名画「睡蓮」のようだと言われている。また、井の頭池の夏の風物詩にもなっている。

2021年は、初夏までは井の頭池全域でツツイトモの生育が確認されていた。なかでも、ポート池区域にはとりわけ広く群生していたが、7月後半、強雨によって多量の泥水が流入し、見られなくなった。8月現在、上流側のお茶の水池区域でのみ群生を見ることが出来る。

その他、注目の水草

1957年に井の頭池で発見されたことからその名が付いたイノカシラフラスコモ。湧水の涸渇により絶滅したと思われていたが、かいぼり後に埋土胞子から発芽した。2021年も生育が確認されている。

ヒロハノエビモは2014年に生育が確認されたのみで、その後は見つからない。同年に一部の個体を採取して大型水槽で保管していた株を2020年に池に植え戻したところ、今期は開花が確認された。

都内で、この2種の生育が知られているのは井の頭池のみである。



イノカシラフラスコモ



ヒロハノエビモ



ツツイトモに産卵するムスジイトトンボ

増加する外来水草

ツツイトモなどの在来水草を脅かす外来水草コカナダモが増加している。かいぼりが行われた2014年から2018年には少数の株が見つかっており、その都度、手作業で取り除いていた。その後2019年にまとまった規模の生育が確認され、2020年には池の全域に分布が拡大した。井の頭かいぼり隊などが駆除作業を行っているが、生育範囲が広いため取り切れていない。

コカナダモは、国内には雄株しか定着しておらず、種子をつくらないことから主に切れ藻から再生し、草体で冬を越す多年草である。こうした特性から、池や水路を冬期に干し上げている場所では生育が抑制されていることが知られている。

散策のおともに！ 水草リーフレット 配布中



水草の種類や観察ポイントを紹介。園内看板に備え付けのチラシ入れか公園案内所で入手できます。

Topics

チョウトンボ舞う井の頭池



池の上をゆっくり滑らかに飛翔していたかと思うと、急に素早い動きで他個体を追い払います。光の具合によって翅が青紫色にキラキラと輝くのも魅力的。眺めていると、時の経つのをつい忘れてしまいます。

ヒメガマなどの水生植物がよく茂った明るい池に棲むトンボで、昨年までは1〜2頭が見られる程度でしたが、今期は10頭以上が観察されるようになりました。

東京都レッドリストNT（準絶滅危惧）。



くるっと丸まった葉が特徴だ



池全体に蔓延しているコカナダモ

いけいけ！かいぼり隊
～波瀾万丈の新規加入ボランティア、の巻～

2020年度に井の頭かいぼり隊のボランティア追加募集を行い、新たに28名が加わった。ボランティア講習期間だった1月に緊急事態宣言が発出されて講習会場を使用できなくなったことから、講習は自宅学習に振り替えとなった。こうして新規加入生は、他のメンバーと一度も顔を合わせる事のないまま「池デビュー」を迎えたのである。

4月から、アメリカザリガニ防除ワナの組立に始まり、毎週のワナ回収、池への泥水流入防止の空堀整備、水鳥モニタリングなどさまざまな活動が始まった。先輩隊員に教わりながら始めたのも束の間、4月末には再度の緊急事態宣言発出でボランティア活動は休止となった。

6月に活動が再開したが、7月には活動休止。井の頭池のために汗をかきたいという気持ちは募るが、今は焦らず、事態の好転を願う毎日だ。



(上) 防除ワナの組立作業 (右) 井の頭かいぼり隊集合！